

熊本駅周辺地域
都市空間デザインガイド(本編)
の概要



GUIDEBOOK

1 都市空間デザインのテーマ

駅として使いやすく、
公園として居心地良く、
街として暮らしやすい
熊本に育まれた文化に根ざした都市空間

古より熊本に育まれた文化「簡易・善良・素朴の精神」に根ざしたまちづくりを目指して、過度に華々しい開発を競うのではなく、風土や自然環境に配慮すると共に、個々の空間が互いに協調し、人や自然にやさしいまとまりを備える、環境の世紀にふさわしい新たな熊本・都市空間を創出する。

〈 大切にしたい駅周辺の都市環境 〉



地域のシンボルとなる熊本らしい緑



花岡山を望む広々とした空



都心部に繋がる自然豊かな空間

2 都市空間デザインの基本方針

にぎわいの都市空間

○新たに基盤整備や建築物の更新等が行われる本地域において、新たな九州の拠点として、また県都熊本の玄関口にふさわしい良好な都市空間の形成を目指します。

環境豊かなうるおいの都市空間

○他の地域では見られないほど豊かな緑と環境空間を兼ね備えた、にぎわいとうるおいの都市空間の形成を目指します。

すべての人が利用しやすい都市空間

○多くの人が交流する本地域において、すべての人にわかりやすく、快適で、安全な、ユニバーサルデザインの都市空間の形成を目指します。

利用者ニーズを取り込んだ、協働のまちづくり

○多様な利用者のニーズを、まちづくりの進捗にあわせて把握し反映させることによって、より良いまちをみんなが一緒につくることを目指します。

3 都市空間の基本構成と全体像

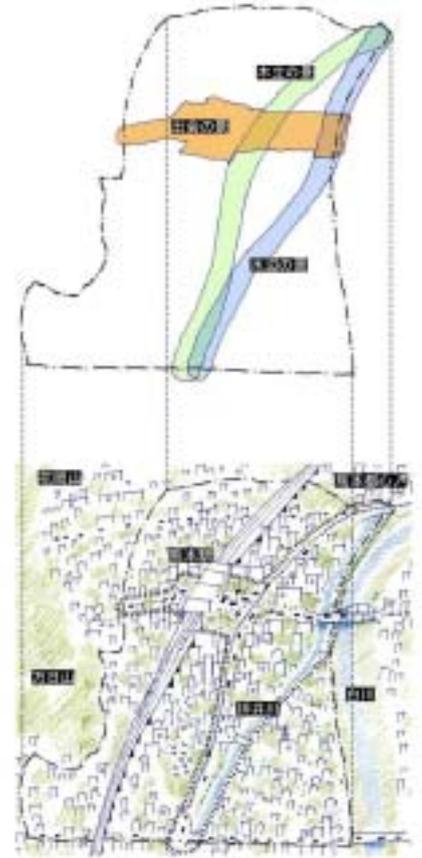
基本構成

3つの景を中心にわかりやすい都市空間を構成する

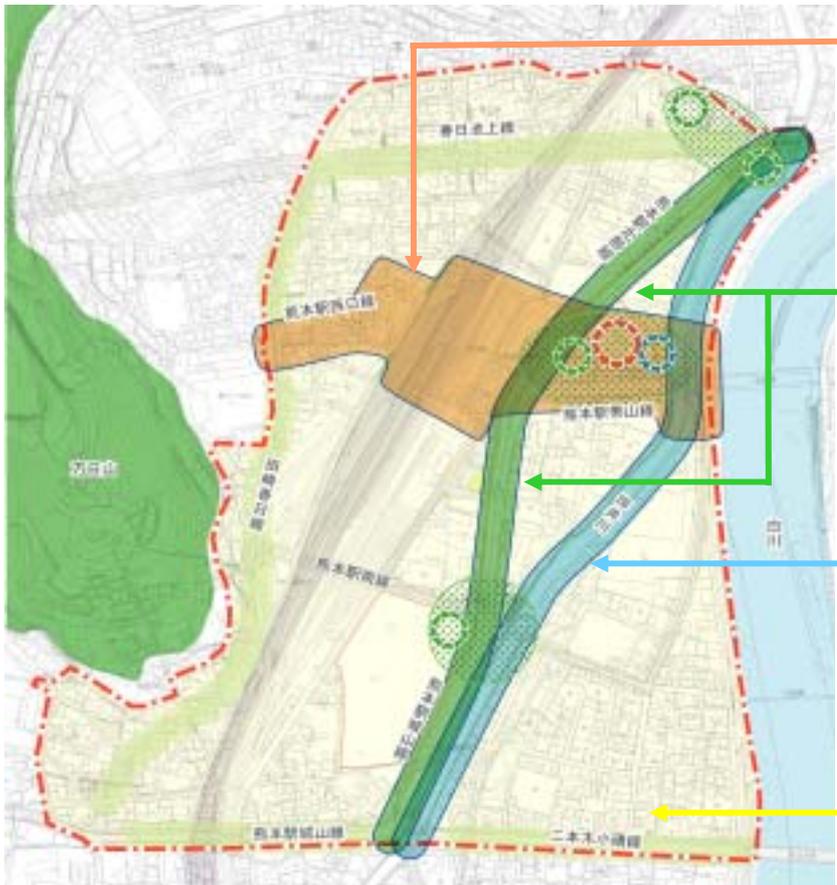
- ・都市空間の骨格を、従来の“軸”ではなく、“ひと”の目線から捉える空間のまとまりを指し、建物や道路、水や緑など全ての空間要素により構成される「景」としてとらえる。
- ・この「景(けい)」を骨格とすることにより、個性と調和、連続性が共存するわかりやすい都市空間を構成する。

豊かな水と緑に満ちた 熊本らしい都市空間を構成する

- ・借景となる万日山や花岡山、白川や坪井川など、これまで地域に親しまれてきた水や緑を大切にしながら、新たに整備される水や緑と共に、うるおいに満ちた熊本らしい都市空間を目指す。
- ・特に、「緑」を地域の一体感を醸成する重要な要素と位置づけ、駅付近から周辺へ「にじみ出す」よう自然な連続性に配慮する。
- ・大きな樹木だけでなく足元の緑などにも配慮し、自然で安全な公園のような空間を目指す。



全体像



であい けい 出会の景

広場が結ぶ緑と出会いと交流の空間
熊本の玄関口として、広域交通結節点の駅を中心に緑と賑わいに包まれた快適でわかりやすい空間

こだち けい 木立の景

地域とつくる木立の中を市電が走る空間
民有空間と公共空間が一体となった、緑の街並みの中を市電が走る、美しい空間

みずべ けい 水辺の景

水辺とまちが交差する回遊空間
地域資源を活かしつつ、田崎橋～水辺の広場～祇園橋を結ぶ安全で変化に富んだ水際での回遊歩行空間

生活空間

(3つの景以外の空間)

地域の生活に密着した基盤として、地域で育てる身近な生活空間

① 出会の景 ~ 広場と結ぶ緑と出会いと交流の空間

熊本の玄関口として、広域交通結節点の駅を中心に緑とにぎわいに包まれた快適でわかりやすい空間を形成することを目的として、

- ・わかりやすさを確保する「空間の連続性」
- ・にぎわいを創出し居心地の良さを感じる場となる「タマリ空間」
- ・誰にも優しく判りやすい移動経路確保のための「熊本ホスピタリティ」

を大切にしていく。

緑とにぎわいに包まれた快適な空間



様々な施設にアクセスしやすい空間構成

〈 東口駅前広場から東を望む イメージスケッチ 〉



豊かな緑の配置の中に抜けるように開いた空が見えることで、都市の骨格として、また明快な方向性を持って東A地区や水辺広場へと導く。また、多様な賑わいを受け止めるとともに、判りやすい乗換機能を備えた広場空間を表現している。

② 木立の景 ~ 地域とつなぐ木立の中を市電が走る空間

民有空間と公共空間が一体となった、緑のまち並みの中を市電が走る、美しい空間を創出するため、

- ・出会の景とのつながりや、景の一体感を演出する「木立の連続」
- ・緑、にぎわい、安全・安心を確保するための沿道民有空間との「協調・連携」

を大切にしていく。

出会の景のにぎわいとつながりが、緑と共ににじみ出してきたような空間

緑と市電が映える美しいまち並み



木立の中を走るサイドリザベーションの市電と一体となった美しい街並み

〈 熊本駅城山線 二本木交差点より北方向を望むイメージスケッチ 〉



沿道空間と歩道とが連携したうらおいとにぎわいの空間と、木立の中を走る市電の風景を表現しています。

③ 水辺の景 ~水辺とまちが交差する回遊空間

地域資源を活かしつつ、田崎橋～水辺の広場～祇園橋を結ぶ安全で変化に富んだ水際の回遊歩行空間を創出する。

継ぎ目のない連続性のある空間ネットワークを形成するため、拠点同士に「見る・見られる」の関係を与え、回遊性を高める。

地域資源を活かした回遊空間の形成



水と親しみ、うるおいを感じる、水辺広場や回遊拠点の創出

〈 春日橋下流側から北方向の水辺の広場と散策路を望むイメージスケッチ 〉



坪井川沿いの建物や広場が互いに連携しあい水に近づき親しめる空間を表現している。

④ 生活空間 ~豊かな水と緑に満ちた、暮らしやすい生活空間

緑を活かしたまちづくり

- ・地域の景観を象徴する既存の緑を活かす。
- ・新たな緑によりまちなみ景観を演出する。
- ・公共空間と民有空間の緑の連携を図り、生活空間の特徴を活かした景観を形成する。



〈公共空間と民有空間での緑の連携イメージ〉

沿道利用に応じたまちづくり

- ・規模の大きな民間開発の沿道では、道路空間と一体的な賑わい空間を形成する
- ・小さな店舗が建ち並ぶ街区では、建物のしつらえを大切に空間を形成する
- ・住宅地では、暮らしやすい快適な住環境を形成する



〈小さな店舗が建ち並ぶまちのイメージ〉

地域資源を活かしたまちづくり

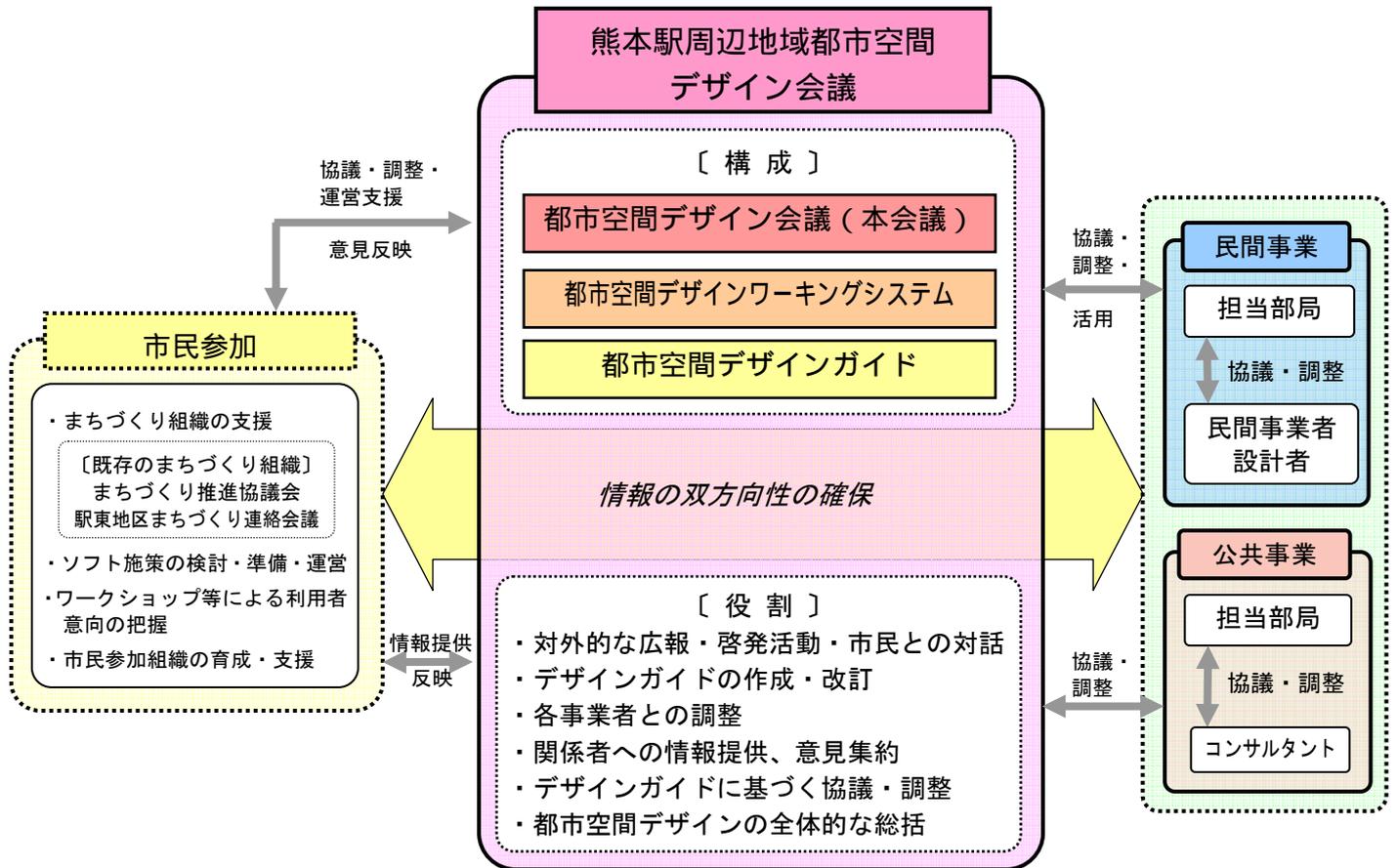
- ・地域に育まれてきた地域資源や生活文化をまちづくりに活かし、まちの記憶を未来につなげる



〈まちなかの水路を活かしたまちづくりイメージ〉

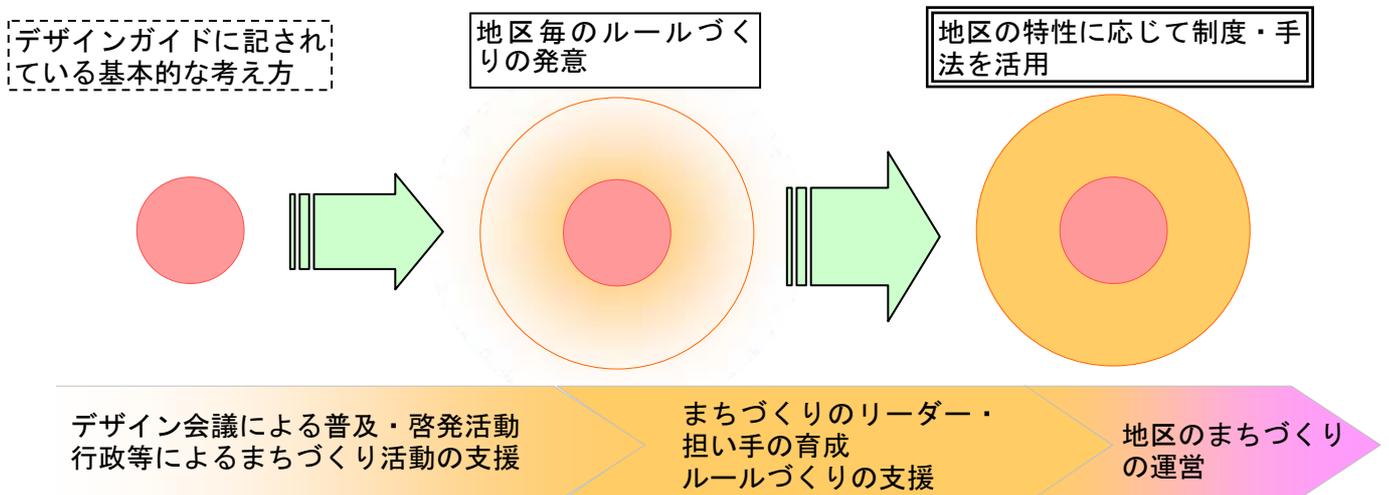
5 デザイン調整の仕組み

- ・「①デザインを共有する」「②デザインの一貫性を保持していく」「③デザイン・設計を監理・運用していく」ための仕組みとして**デザイン会議を設置**
- ・具体的なデザインの調整は、本会議、ワーキングシステム、ガイドがそれぞれ役割分担を行いながら、施設の規模や都市空間上の重要度に応じて、計画段階から施工やその後の維持管理まで適切な場で調整を実施



〈 デザイン調整の体制とデザイン会議の役割 仕組み図 〉

- ・デザイン会議は、デザインガイドの考え方などが地域の発意によるまちづくりのルールに発展していくよう、地域活動を支援



【お問い合わせ先】

- 熊本県新幹線・熊本駅周辺整備事務所
TEL : 096-323-8200 FAX : 096-323-8201 Email : kumamotoekiji@pref.kumamoto.lg.jp
- 熊本市都市建設局熊本駅周辺整備事務所
TEL : 096-323-8177 FAX : 096-323-8052 Email : ekishuhenseibi@city.kumamoto.lg.jp